

比較的採集しやすい。

後種は今まで採集例が少なかったが、1977年8月中旬に北海道網走市能取岬近くの海に注ぐ小川の湿った砂地において、局部的に群棲する場所をみつけた。採集した当日は気温が高かったせいか、逃げられる個体が多く、わずかに31頭しか得られなかったが、ここではコホソトビミズギワゴミムシは1頭も採集できなかった。両種にはあるいは住み分けができていのかかもしれない。コホソトビミズギワゴミムシに比較して、ホソトビミズギワゴミムシは、より海浜性を有する種類ではないかと考えられる。

(〒082 北海道河西郡芽室町新生
北海道立十勝農業試験場専技室)

フチトリヒメヒラタタマムシの 本州における採集例

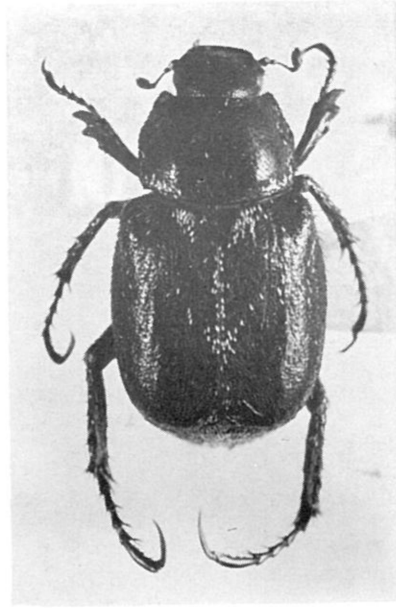
藤田 宏

フチトリヒメヒラタタマムシ
Anthaxia (Haplantaxia) rubromarginata MIWA et CHUJŌ
は北海道・本州・九州・対馬・朝鮮・シベリア東部(ウスリー)における分布が知られているが、日本では稀な種で、特に本州における記録はわずかなものと思われるので、筆者の手元の記録を報告しておく。

1ex., 福島県南会津郡湯の花,
16. Ⅶ. 1974, 小林敏男採集

広葉樹伐採枝のピーティングで採集されたとのことである。貴重な標本を恵与された小林敏男氏に感謝したい。

(〒110 台東区台東 2-29-6)



を設立した(昆虫学評論, 29(1/2), pp. 59~61, 1968)。たしかに、前肢・前胸背側縁の刺毛列・後肢第5付節の下面の小歯などを比較観察すれば、*moerens* m. および *moerens ohbayashii* と *hakonensis* とははっきりした違いをもっているので、*hakonensis* は *moerens* の var. または ssp. ではなく、独立種とした野村氏の考えが妥当と思われる。

さらに前記論文の中で野村氏は、*H. hakonensis* の産地として箱根仙石原・箱根・神山をあげ、「本種の産地は目下のところ、箱根付近に限られているが、伊豆半島に本種やイノウエスジコガネ *Anomala inouei*^{注1)} のような固有種を産することは分布上興味深いことである」とのべている。

野村氏のあげた3ヶ所の産地の中の「箱根」がどこをさすのか不明確ではあるが、いずれも箱根外輪山の内側と考えるとすれば、続く文章からみて、野村氏は箱根を伊豆半島に含めて考えているようである。

伊豆半島を考える時に、箱根地方までを含めるか否かは、かなり難しい問題である^{注2)}。そこで筆者は、これに深入りすることをしないで、より明瞭な伊豆半島におけるハコネアシナゴコガネの産地を探してみたが、文献の中に見つけることはできなかった。ところが、幸いにも今回下記のように本種を採集することができたので、伊豆半島における初記録として報告しておく。

1♀, 静岡県伊豆・天城峠, 16. Ⅶ. 1977,

石田正明採集

本個体と箱根(駒ヶ岳・神山)産の個体と比較してみたところ、箱根産のやや小型で背面に鱗片の少ない個体

ハコネアシナゴコガネを伊豆・天城峠で採る

石田 正明

ハコネアシナゴコガネは沢田玄正博士により、クロアシナゴコガネ *Hoplia moerens* WATERHOUSE の var. として記載され、模式産地は箱根仙石原(holotype・allotype・paratype)および赤城山・魚岩留・蓼科・万座温泉・富士山・日光・諏訪東俣などがあげられた(日本の甲虫, 2(1), p.39, 1938)。

野村鎮氏はこれについて、holotype を含む箱根産のものを独立種と認め *Hoplia hakonensis* SAWADA とし、他の産地のものを *H. moerens ohbayashii* として新亜種